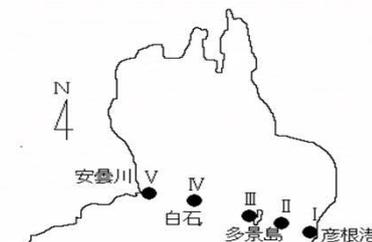


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年4月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和5年4月10日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

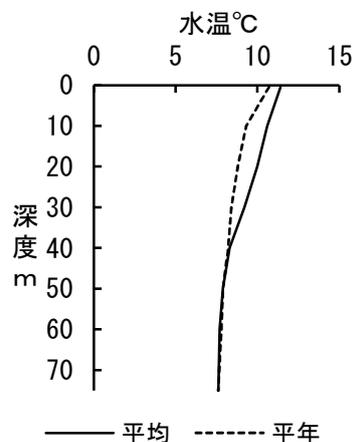
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 4月平均値 8.2m 平年値 5.7m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	4月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	11.4	10.7	+0.7
10	10.6	9.3	+1.3
20	10.0	8.8	+1.2
30	9.2	8.4	+0.8
40	8.3	8.2	+0.1
50	7.9	7.9	+0.0
60	7.7	7.8	-0.1
75	7.6	7.6	+0.0



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
3月下旬	11.4	9.2	+2.2
4月上旬	12.1	10.2	+1.9
4月中旬	13.3	11.4	+1.9

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	4月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	14.1	13.8	+0.3
10~20	7.1	4.7	+2.4
20~40	2.7	1.7	+1.0
40~75	0.7	0.7	+0.0

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは、全ての地点で*Dinobryon cylindricum*(ジノブリオン:黄色鞭毛藻)が細胞数で最も多く認められた。

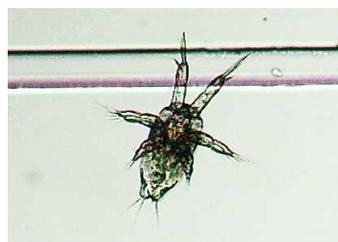
動物プランクトンは全ての地点で*Kellicottia longispina*(トゲナガワムシ:ワムシ類)が個体数密度で最も多く見られたほか、*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生も個体数密度で多く認められた。そのほか、地点1で*Bosmina longirostris*(ゾウミジンコ:枝角類)が、地点2、3で*Daphnia galeata*(カブトミジンコ:枝角類)が、それぞれ個体数密度で多く認められた。



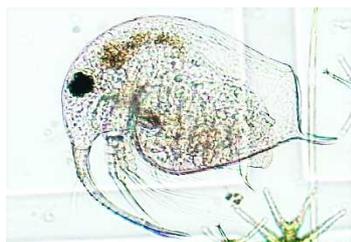
Dinobryon cylindricum



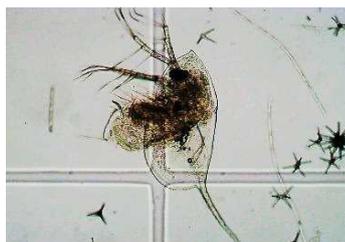
Kellicottia longispina



ノープリウス期幼生



Bosmina longirostris



Daphnia galeata

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラ法による測定値。

深度 (m)	4月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	11.3	103.7	11.6	108.1	-0.3	(-4.4)
10	11.4	102.3	11.6	105.5	-0.2	(-3.2)
20	11.3	100.4	11.4	102.1	-0.1	(-1.7)
30	11.0	95.9	11.2	99.9	-0.2	(-4.0)
75	10.0	84.1	9.9	85.4	0.1	(-1.3)